

研究開発課題説明資料（終了課題）

1．課題名（期間）

タイル張り外壁の補修構工法の検討（平成13年度～平成14年度）

2．主担当者（所属グループ）

根本かおり、眞方山美穂（建築生産研究グループ）

3．背景及び目的・必要性

高度経済成長期以降に建設された多数の建物が、大規模修繕工事の時期を迎えている既存建築物の補修工事を行う際に、「施主・建物管理会社」、「設計者・コンサルタント」、「施工者・専門工事業者」など、個々の立場によって個別の作業内容は取決められているが、それぞれが行う作業を円滑に連結させる手法、例えば劣化診断後の補修工法の選択や施工業者選定の方法は明確になっていない。また、施主の要求を工事に反映する手段も十分には検討されておらず、技術者が提案する補修工法に対して、施主の要望に合致した内容が盛り込まれたうえで工法が選択されているのか判断することが困難であった。よって、本研究では大規模修繕工事の計画段階において、技術者が修繕工法の提案をおこなった際に、施主がその工事内容を理解し要求する修繕工事が得られるのかを判断するために必要となる、修繕工法に関する評価を可能とする評価手法を提案することを目的とした。

4．研究開発の概要・範囲

修繕工事の設計段階において工法選定に際し、施主が工事内容に対して意思表示ができるようにするための修繕技術の工法評価について検討を行った。この工法評価は、施主が修繕工事に期待する建物の回復のほか、補修工法の最たる特徴である、居住者の居ながら施工を考慮した工法選定に役立つ情報を持つものとした。なお、ここで施主としたのは、建築の専門家ではない建物の所有者を対象としている。また、工法の内容を検討する際に、RC造建物の外装タイル張り仕上げを中心とした外壁の大規模修繕工事を対象とした。

5．達成すべき目標

外装仕上げの修繕工事に関して、技術者が提案する工事内容に対して施主の要望事項に合致しているのか判断する際に用いることのできる工法技術の評価方法の提案をする。

6．研究開発の成果

施主が外装仕上げの大規模修繕工事に対して工法評価する際に用いることができる、「工法の情報項目」を作成し提案した。「工法の情報項目」は、建築の専門家ではない施主が、修繕工事の計画段階において技術者から提案される工事内容に対して考えを示すことができるように、工法に関する情報を収集する際に用いることができるものとした。つまり、施主が提案された工法を理解するために必要となる情報を、目的に応じて収集できるように「工法の情報項目」が、情報を収集する「取り掛かり」の部分となる。このため、施主の視点で工法に関する情報を探し出せるものとした。さらに、「工法の情報項目」の活用方法について一部検討を行った。